



2016年度 事業報告

公益財団法人東京YWCA

目次

ご挨拶.....	1
東京YWCA 2016 年度基本方針	2
Ⅰ 平和と人権事業.....	3
Ⅱ 青少年育成事業.....	6
Ⅲ 女性の健康事業.....	8
Ⅳ 社会福祉に資する事業.....	10
Ⅴ 非営利機関・団体への施設貸与事業.....	12
Ⅵ 東日本大震災被災者支援事業.....	13
Ⅶ 収益事業および共益的な事業.....	14
数字・資料で見る東京YWCAの事業活動.....	15
2016 年度公益財団法人東京YWCA組織図.....	24
理事・監事・評議員.....	24
加盟・協力団体.....	25
賛助会員・寄付者.....	25
財務諸表.....	27
監査報告.....	30
事業を行っている主な拠点	

ご挨拶

ジェットコースターのように気温の上下する中で新年度を迎えましたが、皆さまにはご精励のことと拝察致します。ここに2016年度の事業報告を申し上げることが出来ますのも、一重に関係諸機関・諸団体の方々のお支えあってのことと、感謝致しております。

さて、2016年度の公益財団法人東京YWCAの事業の中で、幾つかなの特筆すべきことを申し上げます。まず諸事情により、先送りにしておりました東京YWCA会館外壁の大規模補修を実施し、年度中に終了することができました。ようやく一つの山を越えたという思いでございます。

武蔵野市の道路拡幅計画に伴い、かねてから移転先を探しておりました武蔵野センターは、温かい手を差し伸べて下さる方を得て、吉祥寺駅から遠くない所に家賃を貸して頂けることになり、これも移転を終え、1月から日本語を母語としない親を持つ子どもへの学習支援等を開始する運びとなりました。

板橋センターでは長年療育事業を行って参りましたが、児童発達支援センター化に向けて準備を進めた1年でございます。また板橋センターの敷地内に地域の方からの遺贈による「つくい館」が竣工し、特定非営利活動法人東京YWCA福社会の手で、障がい者の就労支援が行われております。

従来、グループ活動として行ってきた音訳サービスは、発展的に解消し「読むことが困難な人々への支援事業」を新規事業として立ち上げる申請を提出致しました。

運営委員会は百周年以降の記録を残すべく『東京YWCA110周年記念誌』を発行し、次の百年を見据えております。

他の事業につきましては、各項目をご覧頂きたいと存じます。最後に、2017年度もなお一層のご指導、ご支援をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

2017年6月

公益財団法人東京YWCA

代表理事 川戸れい子

東京YWCA 2016年度基本方針

東京YWCAが定款に定めた目的である、「すべての人びとのために自由と尊厳、正義と平和を実現する」ために、会員総会で策定した以下の基本方針・重点課題にもとづいて、各事業に取り組んだ。平和をつくりだすことはもとより、すべての事業や活動はキリスト教基盤に立っておこなわれている。国内外のYWCAのネットワークや他団体、行政との連携を活かし、また多くの会員や支援者の協力を得て目的達成を目指した。

公益財団法人として6年目、YWCAの使命を果たし続けるために、組織を強化し、財政の健全化を図って、さらに事業の充実へと歩みを進めた。

東京YWCA 2016年度 基本方針・重点課題

日本YWCAのビジョン(※)をふまえ、東京YWCAとして2016年度の基本方針・重点課題を以下のとおりとした。

基本方針

- ・非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす。
- ・核兵器のない世界、原発に頼らない社会を目指す。
- ・環境保全のために持続可能な社会を目指す。
- ・いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる。
- ・個人の尊厳を重んじ、支え合う社会を目指す。

重点課題

- ・危機意識を共有し、憲法改悪阻止のために行動する。
- ・脱原発のために行動する。
- ・公益事業を支えるためのファンドレイジングを推進する。
- ・青年枠(35歳以下)の会員増加に努める。

(※)日本YWCAビジョン

使命 イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

第31総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める。
 - ・原発のない社会をつくる。
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く。
- (2) 女性と子どもの権利をまもる
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する

I 平和と人権事業 (公益目的事業 事業番号：公1)

この事業は、平和、非暴力、非核、非戦を訴え、人権が尊重され、すべての人が共に生きる世界の実現を目指し、社会で不当な圧力を受けやすい人々を支援する事業です。



各事業は、多くの方々からのご寄付、また助成金、補助金などの財政的支援と事業に直接関わり、ご協力いただいた支援者の皆様により実施することが出来た。平和な社会の実現と一人ひとりの人権が尊重されることを目的に事業が継続された。

1. 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

家庭交流は、1961年に始まった外国人留学生と日本人家庭との1対1の「組み合わせ」での交流を中心とし、今年度は、105人の留学生が説明会に参加し、52組の会員(母親)との組み合わせが誕生した。留学生の出身は8か国・1地域で、人数が多いのは、中国、台湾、ベトナムだった。傾向として母国で大学卒業、就職を経験し年齢の高い留学生がいること、学校で日本人との関わりが少ないため日本人と交流の希望が強いことが挙げられる。12月には「留学生による日本語スピーチ」を開催した。日本語スピーチには、8人の留学生出場枠に14人の留学生から応募があった。インドネシアとモンゴルの留学生2人が審査員賞を受賞した。会場では引き続き「留学生と会員のつどい」を行い、審査員を交えての歓談の時間を持った。

今年度は「留学生資金」の無利息貸与への申し込みはなく、供与の対象となる事案もなかった。

留学生相談室は、進学先、在留資格、アルバイト、税金等生活上のあらゆる

問題に対して電話又は来室にて相談を受けた。メールによる問い合わせや相談が増加している。相談者の内訳は、中国25%、台湾14%、ベトナム4%、その他の国・地域10%、日本(外国人と交流のある日本人からの問い合わせ等)となっている。相談室ではショートホームステイとホームビジットも実施し、定員を上回る留学生の参加申し込みがあった。相談及びショートホームステイ等、相談室の利用は1,675件だった。11月に留学生のメンタルヘルスについての勉強会をひらき、留学生の心の健康を支えるために相談員ができることを学んだ。

日本語支援は、「留学生談話室」と留学生相談室が実施する「火曜ルーム」である。

留学生談話室は、外国人来室者が734人(昨年度806人)だった。七夕、ひなまつり等の日本文化の体験もした。6月以降、企業のボランティア派遣を受け止めた。

火曜ルームは、一対一で相談を受け、日本語支援をした。試験準備が始まる12月から春休みに入り帰国する留学生が多く、来室述べ人数は261人(昨年度364人)だった。中国、台湾、韓

国をはじめ9か国1地域の留学生を受けとめた。

2. 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金(1982年発足)は、日本で学ぶ、勉学に意欲的、かつ経済的に困難な外国人留学生に対し、留学目的が達成できるよう助成した。平和な社会の実現を目指して将来活躍する留学生を支援するという目的にそって選考作業を進めた結果、6人の留学生を今年度の奨学生に決定し、1人につき年額36万円を支給した。年3回、奨学生報告会をひらき、奨学金小委員会や会員が、奨学生から勉学や生活の様子を聞き、また「留学生の母親」運動が行う留学生と会員のつどいや卒業お祝い会など、交流の機会を設け、奨学金の給付のみならず、精神的なサポートも行った。今年度の奨学生は、日本での就職に関心が高く、10月の報告会では、元奨学生3人より就職活動や仕事等の経験を聞く機会をつくった。奨学生報告会の締めくくりである3月の報告会では、寄付者を招いて、日頃の勉学の様子を発表してもらった。

3. 中国帰国者日本語支援事業

中国帰国者日本語教室は、中国帰国者が日本に定着し、地域社会にとけこみ、自立した生活を営んでいくために必要となる日本語の基礎を習得することを目的に、公益財団法人中国残留孤児援護基金自立研修事業の再委託事業として実施した。在籍者は2名だった。

日本語サロンは、日本語教室を修了した主に高齢の帰国者を対象に日本語の運用力を身につけ、社会参加をうながすことを目的に実施した。学習進度により4つのグループに分け、それぞれ年間30回開催した。日本語教室の講師による指導と話し相手のボランティアが関わることで細やかな対応ができ、学習者の日本語の理解を助けた。季節ごとの行事や日本の風習などを教材に取り入れたり、新聞記事を持ち寄ったり、各グループの担当講師の創意工夫により、ボランティアがサポートしながら、日本語学習を支援した。

4. 平和をつくるキャンペーン

平和、非暴力、非核、非戦の啓発活動は、7月に3年に一度の参議院議員選挙(18歳以上の国民が投票できる初めての選挙)が行われるのを機に、有権者が政治に民意を反映させる手段としての選挙について学ぶ機会を重ねた。民意を無視するかのような政府のうごきに抗い、この流れを阻止するために、一人ひとりが行動できる判断力を養い、連帯していく力を得ることを目的に「憲法カフェ」を6回実施。地域拠点での開催は、調布市にある行政の施設で行い、子どもを連れて参加できる身近な内容で実施した。

クリスマスは「平和へ想いをよせ、祈り、求めるとき」と呼びかけ、Christmas for Peace 2016 (Peace Maker's Day)

を開催した。「個人が個人として生きられる平和な世界を」のテーマに沿って、クリスマスメッセージとトークセッションの2部構成で内容を深めた。「一人ひとりが神様から愛されている存在」であることをクリスマスメッセージで聞き、トークセッションでは、沖縄からの問いかけ、LGBTの人権、子どもを絶対に戦争に行かせたくないという母親の思い、在日外国人からみた日本の社会について発題がされた。差別や生きづらさ感じている人々に対して私たちの無関心、無理解に気づかされ、自分の問題として考える機会が与えられた。

毎年11月に開催する地域のキャンペーン「むさしの市民平和月間」は、武蔵野センターで「沖縄」をテーマに講演会を開催した。「0422市民クリスマス」は、42回目の今年度も、電話局番0422の教会(超教派)・YMCA・YWCAが合同で行った。

HIV/AIDS 啓発のためのキャンペーンは、今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

5. 平和と人権に関する人材育成事業

この事業は、主にDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者支援に取り組む人材の養成を目的としている。「支援者エンパワメントプログラム」によって、DV被害者支援者がよりよい支援を提供することができるように、「つながる」「はかる」「まなぶ」の3つのアプローチからサポートを提供した。

「つながる」では、一人でケースを抱え込んだり孤立しがちな支援者が、団体や所属を超えてつながり、支援に役立つ有機的なネットワークをつくる目的で、支援者サロンを10回開催した。

「はかる」では、支援をする上での目安となり、研修の効果をはかるためのツールとして、2011年度から取り組んでい

たDV被害者支援のガイドラインがほぼ完成し、「全国シェルターシンポジウムin大分」の分科会で、全国の支援者に紹介した。

「まなぶ」では、それぞれの支援現場の課題やニーズに合わせたオーダーメイドの研修を、6都県12団体に対して延べ20回行った。また、今年度から、全国のDV被害者支援者の人材育成を目的とした3か年計画の「DV被害者支援の質向上に向けた人材育成とコミュニティ形成プロジェクト」を、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を得てスタートした。1年目の今年度は、東京で「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」等を開催し、13都府県から支援者が参加した。

その他、DV被害者支援者のリーダーシップについて考える取り組みとして、アンガーマネジメントの勉強会と、「コミュニティ」と「つながり」の重要性を視点にこれからのDV被害者支援について考えるワークショップを行った。

今年度は、「支援者エンパワメントプログラム」をより多くの支援者・現場に届けるため、事業を支え、協働するプロボノとボランティアメンバーを募集した。3回の説明会を開催し、最終的に11名が登録をして、広報やファンドレイジングチーム等を立ち上げることができた。

10月～3月まで大学生1人をインターンとして受け入れ、講座や研修の準備等に関わりながら、DV問題やDV被害者支援についての学びの機会を提供した。

6. NPO/NGO団体への語学支援

東京YWCA国際語学ボランティアズILV(いるぶ)は、英文資料を活用したい、情報を世界に発信したい、というNPO/NGOからの依頼を受け、英語に関する翻訳・通訳を無償でおこなった。

発展途上国支援、小児がん等難病の子

どもの緩和ケアなど、様々な分野で活動している団体から依頼を受けた。翻訳依頼では、報告書やニュースレター、研修資料などがあり、通訳依頼では、NPO法人のプログラム視察の同行通訳の依頼を受けた。

4月、6月、10月に、日英翻訳のスキルアップ研修を行った。普段気づかない、見落としやすい点について講師から丁寧な添削と解説を受けることができ、スキル向上につながった。



「留学生の母親」運動 楽しみにしていた「お母さん」との対面の日



5.3 憲法集会に、YWCAからも多くの人々が参集した

(於：有明・東京臨海防災公園)

Ⅱ 青少年育成事業 (公益目的事業 事業番号：公2)

この事業は、子どもたちの固有の人格をかけがえないものとして尊重し、他者と共に生きるグローバルな視点をもった人として全人格的に成長していくことを支援する事業です。

青少年育成事業は、教育キャンプ等を通して自己肯定感、自発性、創造力、社会性、持続力、豊かな感受性を育むことを目的として事業を展開した。すべての事業は、ボランティア、専門指導者によって無事実施することが出来た。多方面からのご支援に心より感謝したい。

1. 教育キャンプ

豊かな自然を有する東京YWCA野尻キャンプ場(長野県信濃町)にて、7、8月にかけて幼児から中高生を対象に発達段階に合わせた教育キャンプを実施。キャンプ生活を通して自己発見、チームワークやコミュニケーション能力を育むプログラムを行った。また、5、11、3月には家族対象の自然体験プログラムを実施した。3月の「ペタウリスタの森で雪遊び」は4年振りの開催だったが、スノーシューでの森の散策、ソリ遊び、かまくら作りなど雪遊びをダイナミックに体験するプログラムを実施した。

キャンプ場の地元小学生を対象にした「子どもキャンプ」は、51人の小学生が学年間交流も含めて野尻湖の自然を体験する機会となった。

●幼児と小学生 わいわいキャンプ



日程：8月6日～9日(3泊4日)
対象：年長児～小学2年生男女 34人

親元を離れての宿泊体験と水遊び・アーチェリー・クラフト・自然探検など、自分でプログラムを選んで体験。グループ活動ではオリンピックに因んで、オリジナルの旗や歌作りなどをした。

●小学生アドベンチャーキャンプ



日程：8月6日～10日(4泊5日)
対象：小学3年生～6年生男女 32人
水泳・アーチェリー・自然・クラフト・ボロカヌーなどの選択プログラムの他、キャンプ場を無人島に見立てて探検。自分たちが発見したいろいろなものを劇にしたり、「無人島」の地図を作ったりして表現した。6年生は一晚野宿体験をした。

●冬休み、春休みスキーキャンプ



日程：12月26日～29日 3泊4日
対象：年長児～小学6年生男女 44人
中高生男女 16人

日程：3月25日～28日 3泊4日
対象：年長児～小学6年生男女 24人
レベルに合わせてスキー講習を実施した他、小学生では雪遊びやグループ活動、中高生ではスキー検定に挑戦し、夜も屋外で活動し冬の自然を体験した。

● 中高生スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ



日程：8月10日～17日(7泊8日)
対象：中高生女子 6人
女性としていかに生きるかをテーマに、リプロダクティブヘルス&ライツのワークショップでは自己を見つめ、終戦記念日には「平和のプログラム」として松代大本営跡を見学して戦時中の体験談を聞き、過去を学び未来を考える時間をもった。道の駅と博物館での社会体験では、地元の方や観光客と接する中で自己の関心を広げる機会となった。高校生はカナディアンカヌーに取り組み、野尻湖半周トリップにチャレンジした。

被災者支援事業へのご寄付で、福島県の小学生をサマーキャンプに招待した。「わいわいキャンプ」に2名、「小学生アドベンチャーキャンプ」に3名の小学生が参加した。

すべてのキャンププログラムでは、大学生や若手リーダーも活躍しており、講師、プログラムリーダー、調理、保健スタッフの他、キッチンヘルパーやボランティアの協力により実施することができた。

2. 体験学習

子ども会は、子どもクラブ「ももたろう」が、国領センターをフィールドに、全8回の月例活動を行った。小学生27人が登録。家庭や学校とは違う環境の中で思い切り体を動かす外遊び、興味関心を広げる料理や工作など多彩な活動を通し、子どもたち一人ひとりの個性が引き出され、皆で一緒に作り上げる楽しさを体験した。

プログラムは、青年リーダー10人が企画・準備を行った。子どもたちそれぞれの状態や子ども同士の関係性の変化を見ながら、「個性を活かす」「コミュニケーションを活かす」「協力をしながら助け合う」など毎回ねらいを設定し、取り組んだ。また、子どもたちの興味関心も取り入れながら、個々が活躍できる場面を大切にしたい。

自然体験は、東京近郊で四季折々の自然に親しむ家族対象の日帰り体験プログラムを5回実施した。神奈川県をフィールドとした磯遊びや川遊びでは、講師の解説で生き物を観察し、自然と触れ合った。また、NPO法人自然環境アカデミーの協力を得て、八王子で田植えと稲刈りを体験。1月には収穫したもち米を使って東京YWCA国領センターで餅つきを行った。9月に予定していた八王子での里山遊びは雨天のため中止となった。自然体験を通して子どもの関心を引き出し、家族で自然と触れ合う時間を共有するプログラムを展開した。

青少年水泳は、心身の健全な成長をめざし泳力を養うことを目的に、東京YWCA会館のプールにおいて、スイミングとシンクロの講習を実施した。小学1~4年男女を対象にした「ジュニア」2クラスは年間通して満員となり、各種泳法の習得を目指して練習に励んだ。7月には着衣泳で水の安全についての意識を高め、12月にはクリスマス会を実施し、水に親しむ機会を設けた。また、夏休みと春休みに行った短期5日間講習も満員と

なり、定期クラスに通っていない子どもたちが多く参加し、短期間に集中して泳力を養った。小4年~中3年女子を対象とする「ティーンズ」は、中学生も加わった幅広い参加者が個々の泳力に応じた練習を重ね、シンクロや水球にもチャレンジしながら4泳法の習得を目指した。「ジュニアシンクロ」は、オリンピックの影響からか、10月に受講者数が急増したため、指導者を1人増員し、2グループに分けて指導した。各期の最終日には練習の成果を発表する機会を持った。

創作活動は、武蔵野センターで3歳から小学生を対象とした「絵と工作」を3クラス月2回実施した。子どもたち一人ひとりの感性と創造性を引き出し、豊かな表現力を育むことを目的に、床一面に広げた画用紙を6~8人が光る絵で埋め尽くしたり、大きな板にビー玉を転がす道を作ったり、講師が与えるテーマ、または子どもたち自身が決めるテーマで制作を行った。11月から12月には武蔵野センターで「YWCA子どもアート展」を行い、子どもたちの表現の豊かさを来館者に伝える機会を作った。

3. 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもたちへの日本語・学習支援「いちごの部屋」は土曜日に支援を行ってきたが、学校行事や部活が入ることが多いため、今年度から平日を加え週2回実施した。

今年度の特徴は、日本語がほとんど出

来ない状態の子どもが増加である。教育委員会や他団体との連携で支援するケースもあった。また、スペシャルニーズのある子どもについては専門家から助言を得ながらより良い支援を目指した。

支援者募集とこの事業の理解者を増やすことを目的に、公開研修会を武蔵野市の後援で4回実施し、参加者中3人が支援者に登録した。

4. 青少年リーダー養成

青少年活動に関心をもっている人、また現在関わっている人を対象に、宿泊トレーニングを含め全5回の研修を実施した。5、6月にかけて「障がいをもつ子どもの理解と支援」「車イス体験と介助実習」で支援を必要とする子どもへの対応の仕方や「キャンプクラフト」「グループワークトレーニング」など活動に必要な理論と実践を学んだ。また新しく「チャイルドプロテクション」でハラスメント防止と子どもと自分を守る講座も行った。冬のキャンプに向けては雪上安全とスキー実習も実施した。

「あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!」を年2回実施。キャンプ場内の危険木の伐採や薪の準備の他、敷地と植生環境を確認し、キャンプ理念にそった土地の活用に向けて参加者がアイデアを出しあった。今後のキャンプ場の森林保全と活用に向けて小路の新設に着手した。

新拠点に移ったばかりの武蔵野センターでさっそく開始した学習支援「いちごの部屋」



Ⅲ 女性の健康事業 (公益目的事業 事業番号：公3)

この事業は、運動の機会を必要とするすべての女性の心身の健全育成をはかることを目的とする事業です。



高齢である、身体に障がいがある、病後であるなど、運動の機会が得にくい状況にある女性でも安心して運動できるよう、対象者のニーズに合わせた運動の機会を提供し継続できるよう支援した。今年度も多くの方々からご支援ご協力を頂き、事業を実施することができたことに心より感謝したい。

1. 女性の健康づくり

サポートコースでは、メンバー一人ひとりが、体力の維持・向上や生活習慣病の予防などの目標を設定して、プールやスタジオ、ジムでの運動を継続できるよう支援した。定期的に体組成のチェックと運動カウンセリングを行い、体力や健康状態に応じた無理のない運動の計画を立て、生活習慣についてアドバイスした。

健康セミナーは、7月、12月、3月の3回実施し、健康づくりに役立つ情報を楽しく学び、体験する機会を提供した。7月の「肥満予防の食生活」では、ダイエットの基本的な情報に加えて、食事制限で健康を損なうことがないよう、極端な糖質制限や高齢者の低栄養の危険性についての講義を行った。講義内容はサポートコースメンバーに配布して情報の共有を図った。12月の「脳を活性化！認知症予防体操」では認知症について学び、認知症予防に効果があると言われている2つの事を同時に行う体操などを体験する機会もった。3月の「家でもできる腰痛予防エクササイズ」では腰痛の予防に有効な

ストレッチや呼吸法などを指導した。

からだところの健康相談は、隔月で実施し、女性の悩み、心配事、不安の相談に応じた。

サポートコースメンバーの平均在籍者数は297人となり、昨年度に続き増加している。新規登録者の年齢層は、20～60代にわたり、中でも20代が多かった。若年層の登録の増加に伴い、1年未満で退会に至る人の割合が増えていく。退会理由で最も多いのが、忙しくて時間が取れない、次いで健康上の理由や仕事の都合となっている。若年層では、多忙な生活の中で運動の時間を確保して習慣化することの困難さが想像できる。新規登録者が運動を継続できるよう、個々の状況に応じた動機づけや、運動効果を実感できるような働きかけの強化が必要となっている。また、サポートコースメンバーの半数近くが65歳以上となっており、今後さらに高齢化が進むことが予想される。超高齢化社会の到来を踏まえ、さまざまな年代の女性が安全に気持ちよく運動を行い健康づくりが実践できるよう、利用者の視点に立った対策が課題となっている。

2. 疾患後の女性の健康づくり

a 乳がん手術後の女性のためのプログラム (アンコア)

アンコアは、乳がん手術後の女性を対象に、術後の腕や肩の運動障害の改善とQOLの向上を目的とする全8回のプログラムを35期(5～7月)、36期(10～12月)の2期実施した。内容は運動、講義、情報の共有を組み合わせ、乳腺外科医、リンパセラピスト、栄養士など各分野の専門家を招いて術後の生活に役立つカリキュラムを組んだ。参加者は30代から70代の幅広い年代で、ほとんどが術後1年半以内だった。回を重ねるにつれ参加者間の交流も深まり、スタジオとプールで行うエクササイズにも慣れて積極的に参加していた。参加者同士の情報交換の回では、個々の体調や治療、薬の副作用や食生活についての話が出て、お互いの状況について知り合い、共通の悩みや思いを共有する機会となった。乳腺外科医による講義は、参加者の疑問や質問に沿ったわかりやすい話で、乳がん治療による心身の変化や副作用についての

理解が深まり、不安の解消や術後の生活の見通しの参考となる内容で、好評であった。リンパマッサージ法の回では、リンパ浮腫を防ぐためのセルフマッサージの方法や生活の中での注意点などが話された。最終回に実施するアンケートでは、肩周りや身体が動きやすくなった、気持ちが前向きになったなど、参加者の心身両面への効果がうかがえた。

9月にはアンコア修了者を対象に「リンパピクス」の講習を行い29人が参加した。リンパ系の働きについての説明の後、音楽に合わせてリンパの流れをスムーズにするエクササイズを行った。久しぶりに会う参加者も多く、再会を喜び合う姿が見られた。

b 腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動（ディープウォーターウォーキング）

腰や膝に痛みや不具合を抱える人が、日常生活動作を楽に行えるようになることを目的とする水中運動「ディープウォーターウォーキング」は、昨年度クラスが満員となり、ニーズが高いことから、今年度より木曜日に1クラス増設して3クラス実施した。月曜と金曜の2クラスは年間通してほぼ満員で、新設クラスも徐々に参加者が増え、定員16人のところ12人となった。水中歩行と水深3.5メートルの深さを活用した水中運動により、下半身や体幹の筋肉を強化し、柔軟性を高めて、膝や腰への負担を軽減することを目指した。新規の参加者は基本の動作をゆったりとしたペースで行い、長く続けている参加者は鍛えている筋肉を意識しながら難易度を上げたトレーニングで体幹を強化するなど、参加者の体力や習熟度に合わせた運動メニューをこなせるよう指導した。各期開始時

には姿勢チェックを行い、終了時には効果を確認するアンケート調査を実施した。アンケートからは、「終了後、足の運びが軽くなり、股関節の痛みが軽減した。」「背筋が伸びて、腰や膝の痛みも和らぎ、散歩もできるようになった。」など、身体的効果が活動的な生活につながっている様子がうかがえた。また「水中で思い切り体を動かすことができ楽しい。」「仲間と一緒に運動できるので楽しい。」など、運動を楽しみながら実践している参加者の声も多く聞かれた。

3. 障がい児・者の健康づくり

a 肢体不自由者水泳（あひるの会）

肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得られるよう、ボランティアがマンツーマンで水泳指導を行う「あひるの会」は、レクリエーションの一助として行っている活動である。登録者12人を木曜A・Bコース（年39回）と土曜Cコース（年22回）で受けとめた。土曜Cコースは参加者が少ないため、時間を午前から午後に変更し、「発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳」とスペースを一部共有しながら実施した。参加者の殆どが継続者であるが、ホームページであひるの会を知ったという新規参加者1人が、9月から土曜Cコースに加わった。参加者はボランティアと交流しながら水の中で体を動かすことを楽しんでた。また、新規のボランティアが3人加わる一方で、長年あひるの会を支えてきたボランティア1人は3月末で活動を終えた。世代交代が進む中、ボランティアの養成にも力を入れた1年だった。4月の勉強会では、初心者水泳指導の実技に加え、講師を招いて、障がい者が安全に水中運動を楽しむための留意点や工

夫についての具体的なアドバイスももらった。また、新規ボランティアが、車いす移動の参加者の介助法について先輩ボランティアと一緒に練習する機会を持ち、9月には実技研修としてプールの深さを活用した「ディープウォーターウォーキング」の体験会を行った。

b 発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳（かめさんくらぶ）

発達に遅れや偏りのある女兒が、プールでお母さんと触れ合いながら水泳を習得することをめざし、隔週土曜日に年22回の講習を行った。泳力に応じたグループに分け、子ども一人ひとりの成長の段階や個性に合わせた指導を行った。前期は新規に2組が加わり、中学生の継続者を入れて11組を受けとめた。年度初めは担当が変わり子どもたちの戸惑う様子が見られた。新規参加者は緊張からか、母親と離れることができなかったが、徐々に慣れて笑顔が見られるようになり、水を楽しめるようになった。後期は転居や学校の都合により4組が抜けて、新たに1組が加わり、8組を受け入れた。体調不良や学校行事による欠席が多く、全員が揃って練習することは少なかったが、個々の目標に向かって、皆楽しそうに練習を行っていた。水慣れを中心に練習していた参加者が泳ぎたいという意識を持つようになるなど、成長する姿がみられた。

c アクアサポート

1人ではプールでの運動が難しい、身体に障がいのある人や高齢者のためのマンツーマンプログラムとして実施した。継続して1人が利用し、泳力の向上に伴い、利用回数は昨年より増えた。

IV 社会福祉に資する事業 (公益目的事業 事業番号：公4)

この事業は、1人ひとりが尊重され、その人らしく生きることのできる社会の実現を目指し、高齢者、障がい児・者とその家族、子育て家庭等の福祉の増進に寄与する事業です。



社会福祉事業では、法制度の改正や社会情勢の変動の中で、長期の見通しを持って安定した事業展開を行うことが常に課題である。板橋センターでは2017年度からの児童発達支援センター化に向けて改修工事も含めた準備を進めた。また、法や行政の枠組みによらない東京YWCA独自の事業は、多くのボランティアのかかわりによって実施され、ご寄付によって支えられた。心から感謝したい。

1. 療育事業

「東京YWCAキッズガーデン」は、児童福祉法に基づく「児童発達支援事業」と「放課後等デイサービス」による多機能型事業所で、14年目を迎えた。職員研修やスーパービジョンの充実により常に療育の質の向上に努めた。「保育所等訪問」と「相談支援」事業に対する区からの補助金により、保育園、学校等との連携をさらに強化することができた。また、区内障害者自立支援協議会及び区内発達支援ネットワークメンバー、特別支援学校の協議会委員等として、地域の福祉・教育分野との連携協力関係の強化をすすめた。

青年期に入り成人した障がいをもつ人に対しては、NPO法人東京YWCA福祉会が行う就労継続支援B型事業に東京YWCA板橋センターの一部施設を無償貸与し、また同福祉会が行うグループホームも含め寄付のほか、職員や会員、ボランティアが地域関係者とともに事業に協力、支援を行った。

2. 発達支援相談事業および3. 発達支援体験事業

発達支援相談事業は、板橋センターにて継続した。

板橋センターの発達支援体験事業は、「にじいる教室」として2年目を迎え、陶芸・ダンス・お菓子作りの体験活動を実施、各々の専門家と療育の専門職が協力して子ども一人ひとりのニーズに合った活動を展開した。

国領センターの発達支援体験事業は、音楽・陶芸・サッカー活動と夏休み恒例のデイキャンプをそれぞれ実施し、子どもたち一人ひとりの成長を促すことができた。

4. 障がい児家族支援体験事業

障がいのある兄弟姉妹をもつ児童と家族を対象に、今年度は2つの事業を行った。

障がい児きょうだいの会『きらりんこ』は、きょうだい児を対象に同じ立場の友だちやボランティアリーダーと心行くまで遊び交流するプログラムで

ある。今年度は同じ顔ぶれのリーダーが安定して参加したことで、子どもたちが心を許して楽しめる場とすることができた。会発当初、「きらりんこ」メンバーだったOG・OBがリーダーとなって参加した。きょうだい児がリーダーとして活動に関わることで、今後のきょうだい児支援の活動の質が更に深まることが期待される。

障がい児きょうだいの会『いどばた』は、障がい児ときょうだい児を育てる母親たちの情報交換の場であり、語り合いの場である。「いどばた」は、板橋拠点で定期的に開き、子どもたちの成長とともに変化する課題について話し合う場となった。立ち上げメンバーが後輩の母親たちをサポートする場にもなり、メンバーの世代の広がりにつながった。

年に1～2回行ってきた、家族単位で参加交流するプログラムである障がい児きょうだいの会『ふぁみりんこ』と、自然体験と様々な家族の出会いと交流を目的とした親子参加型プログラム「いっぼの会」は、今年度は実施できなかった。

5. 障がい児・者介護事業

「障がい児・者介護事業」は、障がい者総合支援法に基づき、障がい児・者延べ 152 人の利用者に対し月間平均 135 時間程度のサービス提供を行った。昨年度と比較して延べ人数は 30 人ほど増加した。障がいを持った子どもへの支援は成長と共にニーズも変わり、「調理ができるようになること」や「自宅のカギを開けられるようになる」など、より自立に向けた支援が求められ、時間をかけて丁寧にかかわることで、子どもが成長できていった。成人では精神面の問題で生活に困難を抱える人々に対して、地域での生活ができるように退院前から医療、福祉、保健機関と連携を取り支援することで、在宅生活につなげることができた。

6. 高齢者介護事業

介護保険法に基づく「居宅介護支援」「訪問介護」のサービス提供により、自立度が高まり、生活の質が向上するように支援を行った。

「居宅介護支援」では、要介護状態にある高齢者・年間延べ 266 人に対してケアプラン作成等を行った。加齢による重度化のため施設入所する方が多く前年度と比較して利用者数は減少した。9 月には東京都社会福祉協議会・居宅事業者連絡会のメンバーとして、軽度者の利用料自己負担化に反対するフォーラムに協力、国に要望書を提出した。次の大きな制度改正は 2018 年度に予定されているが厳しい状況になることが予想されている。

「訪問介護」では、4 月より板橋区日常生活支援総合事業がスタートして、従来の予防介護（要支援）の利用者が徐々に移行している一方、介護認定で自立となった方も事業対象者としてサ

ービス利用ができるようになった。「通所介護」は、休止中。

7. 高齢者電話相談事業

「シニアダイヤル」は、高齢者の「孤独な時」の身近な一人になることを目的とした電話相談事業で、21 年目を迎えた。昨年度の「新人相談員養成講座」修了者 2 人が加わり、26 人の相談員が年間 272 日 2340 件（一日平均 8.5 件）の相談を受け止めた。相談者で最も多いのは 60 代で、また、相談内容は「人生」と「対人」が多かった。

相談対応の質的向上とより良い運営を目的として、毎月研修を行った。相談事例を取り上げ日頃の電話相談を振り返り、専門家の指導を受けた。

今年度の新人養成講座は 9 月から 12 月にかけて実施し、5 人が修了した。

8. 介護予防体験事業

「ティーポットサロン」は、高齢者が地域で交流の場を持ち、豊かな時間を過ごすことで心身の健康を維持することを目的としている。今年度も調布市や地域からの期待に応え、3 クールの活動を行った。リピーターが多く、参加者のさらなる高齢化が進む中、サロンが貴重な外出の機会になっているという声もあり、根強い人気がある。今年度は内容に変化を持たせるよう工夫した。

「男の料理教室」は 5 年目となり、参加者の多くがリピーターであった。

9. 統合保育事業

「東京 YWCA まきば保育園」は、調布市の認可保育園として、子どもたちの個性を大切に、子どもたち自らが

育っていく力を信じ、子どもたちが主人公の保育に取り組んだ。3 月には、異年齢保育の中で 4 年間過ごした園児を送り出した。「まきばの保育」への保護者の理解は懇談会、園便り、日々の保育の連絡帳他を通して深めることができた。これは、利用者アンケートでの 90%を超える「大変良い」「良い」に表れている。

広大な庭の芝生は東京都補助金助成も得て管理され、通常の保育に加えて運動会、地域を対象としたオータムフェアを実施することができた。

地域の子育て支援の拠点として親子コンサートも開催され、役割を果たすことができた。

10. 子育て支援相談事業

東京 YWCA 国領センターでは、たんぽぽ広場に年間延べ 1100 人を超える親子が訪れ、保育園の専門性と YWCA のボランティアの力を得て事業を実施した。

東京 YWCA 武蔵野センターでは、武蔵野市の道路拡幅計画に伴う事務所移転の影響で事業継続が困難となり休止した。

東京 YWCA 板橋センターでは、区内の子育て支援サービスが充実したことから、今年度も利用はなかった。

11. 学童保育事業

調布市立わいわい学童クラブは、調布市から委託を受けた公設民営学童クラブとして 8 年目となった。また、小学校内学童クラブ（染地小・布田小）2 カ所と放課後子供教室ユーフォー（杉森小・染地小・布田小）3 カ所の運営を引き受けて 2 年目となった。

学童クラブ・ユーフォーの運営では、

子どもたちにとって安心・安全な場になることを目指し、学校や地域、保護者や父母会との連携を丁寧に進めることを心掛け、様々なプログラムの充実に努めた。

特に、学童クラブでは、障がい児や要配慮児を含め在籍児一人ひとりにと

って第二の家庭となれるよう、日々の振り返りや研修に力を注いだ。またユーザーでは、スタッフ集団のチーム作りと学校や学童との連携、行事の充実に努力する年となった。

職員のスキル向上のため、スーパービジョンや子どもへの育成の質を問う

研修を実施した。小学校とのミーティングは月1回実施。管轄地域の染地児童館運営委員として地域子育て支援に協力等地域の中での役割にも力を注いだ。



板橋センターに新しい建物。1階には障がいをもつ人の就労支援事業である、「カフェ JOY」がオープン!!

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

(公益目的事業 事業番号：公5)

この事業は、この法人の目的と共通性のある目的をもつ非営利の機関及び団体にこの法人が所有する施設を貸与する事業です。

この事業では、東京YWCAと共通性のある目的を持つ非営利の機関、団体に、東京YWCA会館の部屋を貸与している。2階と3階に合わせて12室

に10の財団、社団、NPO、社会福祉法人が入居している。

また地下から2階までの空き部屋を貸し会議室として提供した。

東京YWCA会館の施設を活用し、使命を持つ非営利団体の活動を間接的に支援した。

VI 東日本大震災被災者支援事業 (公益目的事業共通)

東京YWCAで持っている専門性とネットワークを使い、東京YWCA全体で被災者支援に取り組んだ。2016年度に計画した事業は、個人、団体、企業からのご寄付と助成金、ボランティアによって、無事実施することができたことに改めて感謝したい。

1. 放射能被害への支援

放射線の値が高い地域に住む子どもと保護者を対象とした転地保養（リフレッシュ）プログラムは、震災当初は、子どもたちを県外に出すことが第一義的な目的だった。無数の県外グループが保養を企画し、インターネットで公開した。このとき、プログラムの質や安全性は見落とされがちだった。5年が過ぎ、助成団体が問題性に気づき、対策がはじまっている。また、実施団体は資金難と人手不足に加え、器を整えても参加者が得られないという事態となっている。供給オーバーというよりは、情報にたどり着けない人、必要とする人を拾い切れていない状況がある。母親の気持ちに寄り添い、県外保養団体につなぐ中間支援団体が必要とされている。こうした背景から、従来の大掛かりな保養プログラムを見直し、参加したい子どもが一人であっても必ず受け止められ、安全と質が保障されているプログラムとして、東京YWCA野尻キャンプ場で主催する一般対象キャンプに福島の子ども枠をつくった。インターネット募集もやめ、東日本大震災支援全国ネットワークに協力を依頼し、対面での募集に変えた。また支援先も比較的落ち着いた中通りから、浜通りに移した。その結果、夏のキャンプに、いわき市の子ども食堂の子どもたちとその友だちを招待することができた。また3月に野尻キャンプ場で行うプログラムに親子を呼ぶ計画を立て、原発から30キロ圏内にある日本基督教団原町教会に協力をお願いし、保育園に広報した。こちらは参加者がなかったが、今後も関係を続けていく。保養に行きたい人を支援する中間支援団体の開拓を秋から本格化させた。

2. 被災地支援

産直応援として、東京YWCA会館での東日本大震災支援バザーで、被災地の障害者施設や仮設住宅で作られた商品を扱った。福島県のアンテナショップが来店した。岩手県は千代田区内に支援の団体が事務所を開いていたが、軸足を岩手に戻すこととなり、出店に代えて委託で産物を扱った。

3. 放射能被害により東京近郊に避難している人への支援

東京近郊に避難している人を対象とした広域お茶会等の実施は、第6回東京YWCA東日本大震災支援バザーで広域避難者のお茶会を開き、災害復興まちづくり支援機構の協力で弁護士による専門家相談を実施した。

東京近郊に避難している人の状況を広く一般に伝えるため、避難当事者と行政、支援する社会福祉協議会をパネリストに招き、広域避難者支援連絡会 in 東京と共催でシンポジウムを開いた。

2017年3月末で住宅支援が終了することが夏に発表されたため、2月に東京都に出向している福島県の県外避難者支援課とNPO法人新宿代々木市民測定所の協力でサポート説明会を日本YWCAと共催で開いた。

そのほか、広域避難者支援連絡会 in 東京にオブザーバー参加し、ふれあいフェスティバルや広域避難者ミーティングの実施に協力した。

4. 啓発

被災地訪問スタディーツアーは、今年度は実施しなかった。

第6回東日本大震災支援バザーは、準備期間を含め延500人のボランティアが参集し、東京でできる被災者支援として定着してきている。

チャリティー講座は、講師の協力でドイツ文学講座を開講することができた。参加者はその後に被災者支援への寄付者や他の事業への参加者にもつながっている。

2016年4月に、熊本と大分で2度におたる大地震が発生した。東日本大震災被災者支援事業を現在まで続けられたのは、中央共同募金会から受けた助成金によるところが大きい。中央共同募金会は、東日本大震災支援での成功体験を熊本地震に生かすため、同じ仕組みの助成金ファンドを立ち上げた。東日本大震災支援とともに熊本も忘れないことをアピールし、これまでの支援への感謝と現地で被災者支援に取り組む小さい団体を応援するため、「寄付つき缶バッチ（くまモンバージョン）」を熊本県の許可を得て3千個つくり、熊本地震募金活動を実施した。

Ⅶ 収益事業および共益的な事業

1. 不動産賃貸事業

東京YWCA会館4階から8階の5フロアを収益を目的として企業、団体等に貸与している。そのうちの1フロアは2014年12月から1年半にわたり空室が続いていたが、ようやく7月に入居が決まり、その後は満室で推移した。都内の賃料相場と比例して、賃料も若干ではあるが上昇した。

1990年の竣工から27年が経ち、二度目の外壁の全面修繕工事をおこなった。11月から3月までの4ヶ月間、入居テナントやYWCA関係者の理解を得て、無事に実施することができた。2017年度に予定しているテナントフロアの空調改修工事に向け計画を詰めた。

また、月極めの駐車場は2台分の新規契約があった。22台収容可能なところサブリース区画も含め18台分の収入を得ている。

東京YWCA会館の地下から2階での貸し会議室は予算を上回る収益を得ることができた。

武蔵野センターは1月から賃貸の建物に移転したため、武蔵野センターにおける貸し会議室は12月をもって終了した。また長野県にある野尻キャンプ場ゆかりハウスは貸切りでの利用が2件のみであったため、利用拡大が急務である。

2. フィットネスクラブ事業

収益を目的に運営する女性専用フィットネスクラブは、体力づくりや余暇の充実などさまざまな目的を持った女性がプール、スタジオで自主的にトレーニングできる場を提供している。収益の柱である会費収入を上げるため、年数回のキャンペーンをおこなって集客を図った。女性専用の運動施設が希少であり、それを望む女性がインターネットで検索し、入会へとつながっている。学生や若い世代の女性が徐々に増え、フリーコース全体の年間平均在籍は前年度より12人多い404人に増えた。女性専用施設を特集する雑誌等に無料掲載されることもあり、新たな層へ周知することもできた。日頃からスタッフが積極的にコミュニケーションを取ったり、クリスマスには親睦のイベントを開催して、メンバーの帰属意識を高め、定着、継続してもらえるよう努めた。

成人のスクールは体力や運動能力の向上を目的に週1回、1クール10回で開講している。プール、スタジオ合わせて27クラスを開講し、各期約360人が受講した。特に夜間開講のシンクロや昼間の日本泳法クラスへの参加が増えた。今年度新設した、土曜朝のスイミング4回講習は、短期間に種目を選んで参加できると好評であった。

YWCAへの信頼感や女性だけの安心感、学校、オフィス街という立地も生かし、安全、快適な運動空間を提供して、より多くの利用者を得ていくことを目指した。

3. クラス事業

生涯教育の視点に立ち、人格の向上や教養を深めるために各種の講座を行った。武蔵野センターでのクラス事業は今年度を持って終了とするため、さまざまな講座を実施した。会館設計者である斎藤義氏によるお話と建築時に募金や計画に尽力した会員との対談、「思いつきり歌」講師、新藤昌子氏によるコンサート、リピーターも多く好評が続く、ピーター・バラカン氏によるDJライブなど、建物や関係者への感謝の気持ちを込めての開催となった。

4. 販売事業

いくつかの拠点に設置している自動販売機や無人購買コーナーで施設利用者に飲み物や必要な日用品を販売した。有料コピー、フェアトレードグッズ、古本などの無人販売で、わずかながら収益を上げている。

5. 会員グループ（理解普及事業）

この法人の会員と将来的な会員が、法人の目的と事業に対する理解を深めることを目的に、グループ活動を自主的におこなった。グループの活動内容は多岐にわたり、学び、祈り、奉仕活動などを通して、メンバーの親睦を深め、一人ひとりのリーダーシップを養い、共に平和を実現することを目指した。62グループ376名の登録があった。会員全体に向け「平和」や「健康」に関するプログラムを実施するグループもあり、東京YWCAの目的達成に向けて、この事業においても会員の力が大いに発揮された。

数字・資料で見る東京YWCAの事業活動

I 平和と人権事業

I-1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

家庭交流

「組み合わせ」内訳(人)

会員	52
留学生	52

「組み合わせ」の会員内訳(人)

新会員	7
2年目以上の会員	45

「組み合わせ」の留学生内訳(人)

国費生 (文部科学省)	4
日本語学校	26
専門学校	6
大学	4
大学院他	12

留学生組み合わせ出身国・地域

国・地域	人数	男性	女性
中国	27	7	20
タイ	2	1	1
インドネシア	2	2	
ベトナム	5	1	4
台湾	10	5	5
韓国	3	3	
カナダ	1		1
中国(香港)	1		1
シンガポール	1		1
合計	52	19	33

留学生資金貸与

前年度より継続返済	0	
新規	長期貸与	0
	短期貸与	0

支援事業の年間プログラム

	延参加者数				
	運営(会員)	会員	留学生	一般	合計
留学生のための「組み合わせ」説明会	5	4	107		116
留学生組み合わせ申し込み	5	3	65		73
組み合わせ「対面の会」	5	65	70	4	144
第1回母の会	10	59			69
六本木1日談話室	6		14	10	30
留学生による日本語スピーチ・留学生と会員のつどい	5	14	47	14	80
第2回母の会	7	58		3	68
卒業お祝い会	10	23	19	1	53

留学生相談室

	開室日数	延ボランティア数		延相談件数/参加者数
		会員	一般	
留学生相談室	140	269		928件
日本語支援「火曜ルーム」	43	155	128	261名
勉強会「大事にしたい心の健康～留学生のメンタルヘルスについて」	1	9		43名
ショートホームステイ・ホームビジット	参加留学生:47		受け入れ家庭:29	

日本語支援

	延回数	延ボランティア数		延参加者数	
		会員	一般	外国人	一般
留学生談話室	42	252	329	734	28
日本語補習教室	0	0	0	0	0

I-2 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金

応募者数	57
------	----

支給奨学生内訳(国・地域別)

ベトナム	4
インドネシア	1
中国	1
計	6

	運営 (会員)	延参加者数			
		会員	留学生	一般	合計
第1回奨学生報告会	5	20	6	0	31
第2回奨学生報告会	5	13	5	3	26
奨学生の集い	5	15	5	4	29

I-3 中国帰国者日本語支援事業

中国帰国者日本語教室

	学期	期間	延回数	延時間	クラス数	在籍者数
屋間部	前期	2016年2月15日～7月29日	130	325	1	2
	後期	2016年9月1日～2017年1月20日	106	265	1	2

日本語サロン

延回数	延ボランティア数	延参加者数
120	309	1200

I-4 平和をつくるキャンペーン

クリスマス

	回数	参加者数
青葉のまつり	1	20
Peace Maker's Day (Christmas for Peace 2016)	1	53

非戦、非核、非暴力をともに考える学習会「憲法カフェ」

テーマ	講師(当時)	参加者数
第23回 「憲法第21条ー表現の自由ってそんなにすごいの？」	島 昭宏(弁護士)	23
第24回 「選挙に向けて私たちが考えること」	中野晃一(上智大学国際教養学部教授)	35
第25回 「沖縄戦を憶えて」	毛利孝雄(沖縄大学地域研究所特別研究員)	30
第26回 「緊急事態条項は本当に必要？」	清水雅彦(日本体育大学教授)	30
第27回 「選挙で変わる私たちの生活」	宇都宮健児(弁護士)	101
第28回 「改憲勢力に対して私たちはどうすればいいの？」	島 昭宏(弁護士)	25

他団体との協力

	回数	参加者数
「沖縄の現実と、いま、私たちができること」※1	1	46
0422市民クリスマス ※2	1	300

※1は「むさしの市民平和月間」プログラム

※2は他団体との共催イベントで参加者は概数。

I-5 平和と人権に関する人材育成事業

「支援者エンパワメントプログラム」

【支援者サロン(DV被害者支援者の交流の場)】

延回数	延参加者数
10	47

【パッケージ講座】

	延回数	延参加者数
DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング	1	33
支援者トレーニング フォローアップ研修	1	14
トレーナー養成講座	1	15
「これからの支援に必要な新しいリーダーシップとは」フォローアップ講座	1	10
これからのDV被害者支援について話して、聞いて、考えるワークショップ	1	22

【オーダーメイド研修】

依頼元	回数	内容	受講者数
独立行政法人国立女性教育会館	1回	よりよい支援の提供に向けた支援者エンパワメント	107
世田谷区生活文化部人権・男女共同参画担当課	1回	DV被害者支援スキルの更なる向上のために	12
埼玉県婦人相談センター	1回	DVサバイバーとの協働をめざす援助技術～ロールプレイ実践と検討～	46
埼玉県北部福祉事務所	1回	「DV被害者支援の進め方」について	19
岩手県福祉総合相談センター	1回	よりよい支援に必要な、支援者のケアと支え合いのしくみ	51
NPO法人くにたち夢ファーム	2回	電話相談研修／チームビルディング	12
社会福祉法人東京援護協会 更生施設 東が丘荘	6回	・職員学習会3回(対応困難な利用者への対応／アンガーマネジメント入門／境界線について)	52
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 更生施設 しのばず荘	2回	アンガーマネジメント入門	20
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 宿所提供施設 淀橋荘	2回	DV被害者支援と施設の役割／息長く支援をするために～支援者のケアと支え合い	14
社会福祉法人新栄会 宿所提供施設・更生施設 ふじみ	1回	支援者としての自分を振り返る	16
あおり男女共同参画をすすめる会	1回	多様な性を生きる相談者からの電話を安心して受けられる相談チームを目指して	9
香川県社会福祉士会	1回	香川県高齢者虐待対応現任者研修	50

「その他のプログラム」

	延回数	延参加者数
新しい視点で聖書を学ぶ連続講座(前期)	6	47

I-6 NPO/NGO団体への語学支援

依頼団体	件数	依頼内容
オイコクレジット・ジャパン	2	活動内容紹介のための資料 和訳 オイコクレジット メキシコの活動についての文書2点 和訳
特定非営利活動法人 シャインオン！キッズ	3	海外ゲストの活動視察案内通訳 助成金申請書一部 英訳 子どもの作文 英訳
公益社団法人Civic Force	5	ニュースレターvol.6 英訳 ニュースレターvol.7 英訳 ニュースレターvol.8 英訳 ニュースレターvol.9 英訳 ニュースレターvol.10 英訳
公益社団法人日本キャンプ協会	1	キャンプ白書 英訳 ①コラム ②アンケート
認定NPO法人国境なき子どもたち	1	2015年度活動報告 英訳
公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会	2	2015年次報告書 英訳 絵本2冊 英訳
NCC日本キリスト教協議会	1	世界祈禱日スライド説明文 和訳

	延回数	延講師	延参加者数
翻訳研修会	3	3	56

II 青少年育成事業

II-1 教育キャンプ

*人数は実数

プログラム	日数	参加者数			リーダー・講師数	参加人数合計
		男	女	合計		
教育キャンプ(東京YWCA野尻キャンプ場)						
年長児～小学2対象「わいわいキャンプ」	3泊4日	18	16	34	12	46
小学3～6対象「アドベンチャーキャンプ」	4泊5日	12	20	32	14	46
中高生女子対象「スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ」	7泊8日	—	6	6	8	14
信濃町在住小学1～6対象「子どもキャンプキャンプ」	1泊2日	13	38	51	9	60
「カヌーキャンプ」	2泊3日	2	5	7	2	9
ファミリー対象としたキャンプ						
ファミリーキャンプ	2泊3日	8	17	25	8	33
春をみつけにでかけようⅠ期	2泊3日	9	6	15	2	17
春をみつけにでかけようⅡ期	2泊3日	12	17	29	2	31
秋をみつけにでかけよう	2泊3日	7	7	14	1	15
ペタウリスタの森で雪遊び	1泊2日	10	15	25	2	27
教育キャンプ(菅平高原)						
冬小学生スキーキャンプ「ぴよんぴよんスキークラブ」	3泊4日	24	20	44	15	59
冬中高生スキーキャンプ	3泊4日	3	13	16	4	20
春休み小学生「ぴよんぴよんスキークラブ」	3泊4日	7	17	24	10	34
他団体からの委託キャンプ						
*参加者は男女総数						
北里大学看護専門学校	2泊3日		46	46	8	54
恵泉女学園大学	3泊4日		16	16	4	20
恵泉スキー(委託キャンプ) 中止	3泊4日	—	0	0	0	0
野尻キャンプ場を提供しYWCAのキャンプリーダーを派遣して行うキャンプ						
*参加者は男女総数						
日本基督教団竜ヶ崎教会キャンプ	3泊4日		32	32	5	37
日本基督教団東京教区東支区中高生キャンプ	3泊4日		56	56	4	60
品川区自然体験教室	4泊5日		50	50	3	53
宇宙少年団	3泊4日		45	45	3	48

II-2 体験学習

子ども会

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
子ども会(武蔵野)	1	2	30
ももたろう(国領)	8	51	196

親子で楽しむアウトドアライフ

プログラム名	延回数	延参加者数			延リーダー・講師数	延参加人数合計
		男	女	合計		
初夏の海で磯遊び	1	10	11	21	2	23
どろんこ田植え体験	1	17	23	40	3	43
きれいな川で水遊び	1	5	9	14	4	18
わくわく里山遊び(雨天のため中止)	0	0	0	0	0	0
みんなでザクザク! 稲刈り体験	1	17	23	40	3	43
もちつきとネイチャーゲーム	1	15	26	41	4	45

青少年水泳

	延回数	延参加者
ジュニアスイミング	76	1663
ジュニアシンクロ	40	394
ティーンズスイミング	34	201
ジュニア短期講習(春1期、夏3期)	19	292

創作活動・異文化理解

		延回数	平均参加者数
創作活動	クラフト	—	—
	絵と工作	42	5.7
	アトリエ	—	—
異文化理解		—	—

Ⅱ-3 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもとその保護者を対象にした日本語および学習支援

延回数	延ボランティア数	延参加者数(子ども)	延参加者数(保護者)
95	574	404	28

参加者内訳(実数)

	人数
支援を受けた子ども	18
支援を受けた保護者	3

ボランティア研修会

延回数	延講師数	延参加者数(ボランティア)
4	6	68

Ⅱ-4 青少年リーダー養成

	期間・日数	参加者数(宿泊ないものは延数)			リーダー・講師数	参加人数合計
		女	男	合計		
リーダーオリエンテーション	5回	4	4	8	0	8
リーダートレーニング	2回	5	4	9	1	10
リーダートレーニングキャンプ	1泊2日	5	2	7	2	9
スキーリーダートレーニング	1回	7	4	11	1	12
スキーリーダートレーニングキャンプ	2泊3日	6	4	10	2	12
春のワークキャンプ	5泊6日	6	12	18	0	18
第1回 あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!	1泊2日	5	6	11	3	14
第2回 あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!	1泊2日	5	7	12	3	15
合計		43	43	86	12	98

Ⅲ 女性の健康事業

Ⅲ-1 女性の健康づくり

サポートコース利用者数

延入会者	延退会者	3月末在籍者
81	70	302

健康セミナー

テーマ	参加者数
知っておきたい健康診断活用術	19
脳を活性化！認知症予防体操	27
家でもできる腰痛予防エクササイズ	28

健康相談

	延回数	延利用者数
からだの健康相談	4	5
こころの健康相談	5	6

Ⅲ-2 疾患後の女性の健康づくり

	延回数	延参加者数
乳がん手術後の女性のためのプログラム	16	135
腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動	128	1341

Ⅲ-3 障がい児・者の健康づくり

	延回数	延参加者数	延ボランティア数
肢体不自由者水泳(あひるの会)	100	232	255
発達に遅れや偏りのある女児の親子水泳	22	249	23
アクアサポート	43	43	

IV 社会福祉に資する事業

IV-1 療育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ ガーデン	延日数	14	19	22	20	18	20	20	20	19	17	20	17	226
	延実績利用者数	267	248	413	358	277	383	370	349	296	317	361	338	3977
	延べ実習生人数	0	26	35	24	10	16	12	13	13	5	0	24	178
シマウマ	延日数	3	3	3	3	3	3	4	2	3	4	2	3	36
	延実績利用者数	31	28	21	28	29	27	25	19	22	33	15	29	307
	延べ実習生人数	0	13	13	8	0	10	9	9	3	5	0	0	70

*キッズガーデン:障がい児(未就学児)児童発達支援事業。 シマウマ:障がいのある小中高生のための放課後等デイサービス(土曜)

	延回数	延参加者数		延回数	延参加者数
保護者会(キッズガーデン)	3	73	研修セミナー	1	25
保護者勉強会(キッズガーデン)	6	40	統合保育研修会	3	73
連携訪問者(キッズガーデン)	20	20			

IV-2 発達支援相談事業およびIV-3発達支援体験事業

		延回数	延参加者数
発達支援相談事業	子ども発達支援室(板橋)	22	56
	OT相談室(板橋)	-	-
	療育個別相談(国領)	-	-
	療育グループ(国領)	-	-
障がいのある 子どものための 体験学習	陶芸(小学生以上対象)(国領)	11	41
	音楽療法(幼児から中学生)(国領)	11	41
	サッカークリニック 1(小学1~2年生)(国領)	9	71
	サッカークリニック 2(小学3年生以上)(国領)	9	71
	カンオベイヤ(集団生活スキル 小学生~中学生)(国領)	2	16
サポートプログラムにじいろ教室(陶芸・お菓子・ダンス)(板橋)	30	126	

IV-4 障がい児家族支援体験事業

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
家族サポート(きょうだいの会 こどもの会 きらりんこ)	3	16	16
家族サポート(きょうだいの会 お母さんのためのいどばた)	9	-	44
家族サポート(きょうだいの会 家族のためのふぁみりんこ)	0	-	-
親子参加型の自然体験プログラム(いっぽの会)	0	-	-

IV-5 障がい児・者介護事業 および IV-6 高齢者介護事業

訪問介護

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実績利用者数		38	39	38	38	35	38	38	36	36	31	34	34	435
訪問 回数	介護給付	147	165	134	140	156	132	124	89	87	65	72	82	1,393.0
	予防介護	88	79	78	75	73	67	65	78	82	83	69	82	919.0
	支援費	89	93	101	104	113	113	97	88	91	94	90	90	1,163.0
	自由契約	4	6	4	2	1	9	4	5	3	0	1	1	40.0
	合計	328.0	343	317	321	343	321	290	260	263	242	232	255	3,515.0
訪問 時間	介護給付	128.75	135.25	118.25	117	131.25	118.75	113.5	79.75	87	56.75	62.5	74	1,222.75
	予防介護	84.50	75.75	75	72.25	68.75	64	59.75	73.75	76.5	77.75	64.25	77	869.25
	支援費	134.0	135.5	136.5	144.5	156.5	152	130	131.5	125	117	130.5	129.5	1,622.50
	自由契約	7.0	15.5	9.5	4.5	2	13	7	8.5	2.5	0	2	1	72.50
	合計	354.25	362.0	339.25	338.25	358.5	347.75	310.25	293.50	291	251.50	259.25	281.50	3,787.00

IV-6 高齢者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護 支援	在籍利用者数	22	23	22	22	23	23	23	23	23	22	20	20	266
	利用実績数	22	22	22	22	21	22	21	22	19	20	19	20	252
	認定調査	5	7	5	6	3	5	5	7	4	7	5	10	69
通所介護	実績利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	開所日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボランティア人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実習生の 受け入れ	大学生施設体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパー研修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

IV-7 高齢者電話相談事業

	延開室日数	延相談員数	年間相談件数
シニアダイヤル(孤独などきの身近な相談相手としての電話相談)	272	521	2300

IV-8 介護予防体験事業

	延回数	延参加者数
ティーポットサロン(地域に開かれた交流の場)	28	533

IV-9 統合保育事業

まきば 保育園 (国領)	年齢	在籍者数(3月末)
	0歳	9
	1歳	16
	2歳	16
	3歳	19
	4歳	19
5歳	19	

IV-11 学童保育事業

	延開所日数	延人数
わいわい学童クラブ (東京YWCA国領センター内)	293	8492
染地小学童クラブ (調布市立染地小学校内)	293	4495
布田小学童クラブ (調布市立布田小学校内)	293	13602
杉森小ユーフオー (調布市立杉森小学校内)	292	6607
染地小ユーフオー (調布市立染地小学校内)	290	6229
布田小ユーフオー (調布市立布田小学校内)	288	5048

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

非営利機関・団体優先フロア(賃貸契約)

貸与先団体数	10
--------	----

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	25	貸与件数	135
--------	----	------	-----

VI 東日本大震災被災者支援事業

	対象	日数	参加者数		
			女	男	合計
東京YWCA主催 わいわいキャンプ	年長児～小学2	3泊4日	1	1	2
東京YWCA主催 アドベンチャーキャンプ	小学3～6	4泊5日	2	1	3

※東京YWCA主催の一般対象
キャンプに福島の子ども枠で参
加した人数

	回数	参加者数
第6回東京YWCA東日本大震災支援バザー	1	722
ひと味違うドイツ文学講座	3	51
広域避難者シンポジウム	1	119

Ⅶ 収益事業および公益的な事業

Ⅶ-1 不動産賃貸事業

不動産賃貸(賃貸契約)

貸与先団体数	6
--------	---

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	22
貸与件数	141

ゆかりハウス

貸与先団体数	2
貸与件数	2

Ⅶ-2 フィットネスクラブ事業

在籍数

	延入会者	延退会者	3月末在籍数
フリーコースメンバー	126	123	388
法人メンバー	0	0	1

スクール

クラス	年間実施回数	累計参加者数	クラス	年間実施回数	累計参加者数
バレエ(土)	44	327	スイミング(ワオクラブ)フラミンゴ(月)	40	393
バレエ(月)	40	328	スイミング(ワオクラブ)カモメ(水)	40	466
ヨガ(金)	44	843	水中ウォーキング(水1)	40	685
ヨガ(月)	40	595	水中ウォーキング(水2)	40	670
転倒予防	40	339	水中ウォーキング(月)	40	352
初めてのフラ	24	106	水中ウォーキング(土)	40	575
タイチーダンス	24	156	健康水泳	40	338
スイミング初級(水)	40	322	ダイビング(金)	42	140
スイミング初級(火)	40	313	日本泳法(火)	40	498
スイミング中級(金)	40	589	日本泳法(木)	40	163
スイミング中級(木)	40	458	シンクロナイズドスイミング(火)	40	430
スイミング中級(月)	40	571	シンクロナイズドスイミング(木)	40	672
スイミング上級(火)	40	710	シンクロナイズドスイミング(金)	40	510
スイミング上級(水)	40	275	スイミング4回講習	40	318

パーソナルレッスン

	延参加者数
スタジオマンツーマンレッスン	309
プールプライベートレッスン	120

Ⅶ-3 クラス事業

	延回数	延参加者数
思いっきり歌	8	86
しあわせのレシピ	5	38
斎藤義さんを囲んで	1	28
ピーター・バラカンDJライブ	1	48
新藤昌子リサイタル	1	50

Ⅶ-5 会員グループ(理解普及事業)

グループ登録数	グループ登録者数		
	会員	一般	合計
62	285	91	376

Ⅷ その他

Ⅷ-1 会員数

	人数
成人会員(18歳以上の女性)	776
年少会員(18歳未満の女性)	0
成人会友(18歳以上の男性)	19
年少会友(18歳未満の男性)	0
賛助会員	27
合計	822

Ⅷ-2 職員数

常勤職員(2017年3月31日現在) 104人

Ⅷ-3 事業に参加したボランティア

事業名	ボランティア延人数	ボランティア延時間
I 平和と人権事業		
事業部共通事項	12	24
1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業	925	3218
2 留学生助成事業	66	294.5
3 中国帰国者日本語支援事業	338	534.5
4 平和をつくるキャンペーン事業	68	151.5
5 平和と人権に関する人材育成事業	89	190
6 NPO/NGO団体への語学支援	60	138
	1558	4550.5
II 青少年育成事業		
1 教育キャンプ	189	2051
2 体験学習	147	836
3 学習支援	633	1902
4 青少年リーダー養成	36	208
	1005	4997
III 女性の健康事業		
3 障がい児・者の健康づくり	259	388.5
IV 社会福祉に資する事業		
7 高齢者電話相談事業	587	2248
VI 東日本大震災被災者支援		
東日本大震災被災者支援事業	36	108
合計	3445	12292

* 単発で行ったプログラムは入っていません。

Ⅷ-4 東京YWCA 新聞

発行実績：年 11 回、毎号 1300 部

対 象：東京YWCA会員、地域YWCA、関係団体など

体 裁：A3 版 2 ページ

1 面主張記事

4 月号 NO. 714

イースターメッセージ 甦るという奇跡を信じること（岩村太郎）

5 月号 NO. 715

憲法記念日に思う（武井由起子）

号外：会員総会報告

6 月号 NO. 716

教育現場から 18 歳選挙権を考える 恵泉女学園中学・高等学校より（加藤英明）

7 月号 NO. 717

2016 年度加盟YWCA中央委員会報告（能美祐子）

8 月号 NO. 718

「平和」の問題以前に「民主主義」を考える ― 投票の義務制はなぜ検討の価値があるか（上村英明）

10 月号 NO. 719

遠く平和を、あきらめずに追い求めよう（石井摩耶子）

11 月号 NO. 720

障害があることとバラスポーツの関係（橋本和秀）

12 月号 NO. 721

クリスマスメッセージ クリスマス、プレゼントは希望（上田亜樹子）

1 月号 NO. 722

新しいタイプの指導者を迎える世界（ランデス ハル）

2 月号 NO. 723

会員総会資料 2017 年度基本方針・重点課題案 平和の実現のために希望をもって歩み続けよう（柏木妙子）

号外：選挙公報

3 月号 NO. 724

東日本大震災から 6 年、東京YWCAの被災者支援の取り組みについて（池上三喜子）

Ⅷ-5 財団広報紙

発行実績：年 2 回（4 月、10 月）、毎号 2200 部

対 象：一般

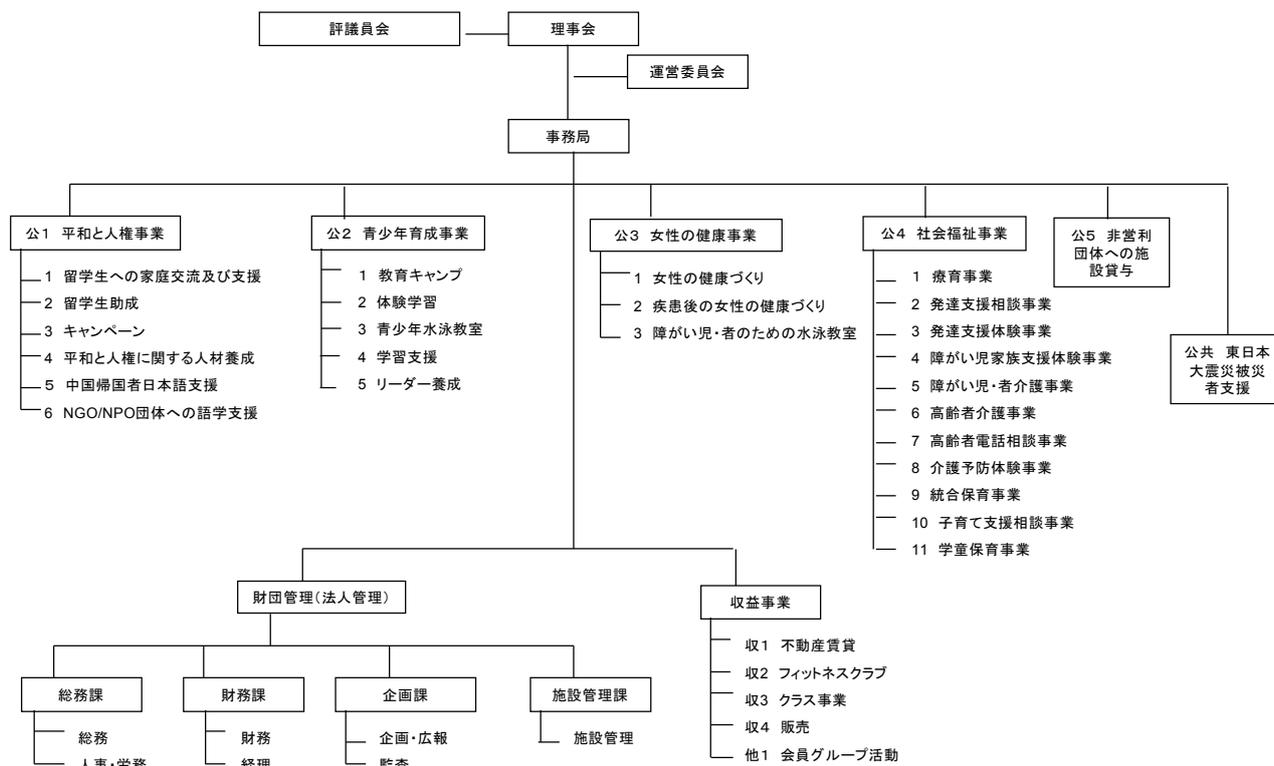
体 裁：A4 版 4 ページ

特 集：vol.11（4 月）女性の健康事業部、vol.12（10 月）YWCAのボランティア

Ⅷ-6 世界YWCA、日本YWCA関連の集会および派遣

	日程
世界YWCAデー集会	2016 年 4 月 23 日
日本YWCA全国会員総会	2016 年 11 月 19～20 日
YMCA/YWCA合同祈禱週における 東京YMCA/在日本韓国YMCA/東京YWCA合同祈禱会	2016 年 11 月 17 日

■2016 年度 公益財団法人東京YWCA 組織図



■理事・監事

代表理事 川戸れい子
 常務理事 能美祐子
 理事 柏木妙子 柴田幸子 寺岡祥子 外山真理 新美まり 三宅香織
 監事 八木昭子 横川民子

2017/3/31 現在

■評議員

岩村太郎 及川津紀子 大島和美 河島京美 川島堅二 杉本策子 高橋りえ子 新田和子
 東平瑞江 細貝順子 本田真也 町田洋子 実生律子 桃井和馬 吉岡光人

2017/3/31 現在

■ 加盟・協力団体 (順不同)

公益財団法人公益法人協会 公益財団法人神田法人会 公益財団法人神田法人会源泉部会 一般財団法人東京社会保険協会 千代田年金委員会 神田防火管理者協議会 神田災害防止会 東京災害ボランティアネットワーク 社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 心の東京革命協会 性搾取問題と取り組む会 NCC世界祈祷日実行委員会 NPO法人全国女性シェルターネット NPO法人日本国際教育交流協会(JAFSA) 人身売買禁止ネットワーク(JNATIP) 公益財団法人中国残留孤児援護基金 公益社団法人日本キャンプ協会 NPO法人自然体験活動推進協議会 公益社団法人国土緑化推進機構フォレスト・サポーターズ 長野森林組合 「出会いと体験の森へ」実行委員会 東京日本語ボランティアネットワーク 0422 キリスト教会合同プログラム実行委員会 むさしの市民平和月間実行委員会 公益財団法人武蔵野市国際交流協会 民間相談機関連絡協議会 社会福祉法人調布市社会福祉協議会 調布市福祉まつり実行委員会 板橋区男女平等推進センター登録団体連絡会 社会福祉法人板橋区社会福祉協議会 一般社団法人全国児童発達支援協議会 区内療育機関連絡会 板橋区地域自立支援協議会障がい児部会 板橋区乳幼児の発達を支援する関係機関連絡会(発達ネット) 都立高島特別支援学校学校運営連絡協議会 板橋区放課後等デイサービス事業者連絡会 社会福祉法人東京都社会福祉協議会介護保険事業者連絡会 板橋区介護サービス全事業所連絡会 一般社団法人東京都民間保育園協会 公益財団法人東京都水泳協会 関東ブロックシンクロ委員会 水府流太田派連絡会 神田環境衛生協会 一般社団法人日本フィットネス産業協会 全国音訳ボランティアネットワーク 東京音訳グループ連絡会 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) 広域避難者支援連絡会 in 東京

■ 賛助会員・寄付者 (敬称略・五十音順)

賛助会員

(個人・団体)

明石一 石橋さなえ 市川寛 内山康一 浦野和一 大海由嗣 岡田正義 忍足直子 活水学院同窓会 神崎典子 郡恭子 後藤恵子 小村明子 笹岡やすみ J.E.ランデス 田中英夫 東方久男 外崎弘子 中瀬和子 橋本永子 林里絵 原田國子 藤井野百合 南小柿祐子 三宅香織 宮下まり 湯田嘉彦

寄付者

(個人)

相澤加壽子 相澤砂知子 赤川恵子 明石速男 秋川卓也 秋田みどり 浅野歌都子 浅原由美 荒木功 池上邦宣 池田祐輔 石井京子 石井素子 石井芳子 石川玲子 石橋さなえ 石丸美子 伊集院和子 石渡能子 泉実紀子 板花喜代子 市川順子 市川寛 伊東正子 井上久美子 井上敬子 井上昌子 岩城紀代子 岩村太郎 上原美智 内田信子 内山康一 内山佳子 宇津陽子 浦野和一 榎本征子 及川津紀子 大海由嗣 扇敬子 大久保智子 大崎美子 大沢登志子 大瀧泰代 大庭貞江 大山容子 小澤敏 柿元恵美子 梶野信子 梶山好美 柏木妙子 片山澄子 加藤みち代 金井淑子 金関昌幸 金田マーガレット 狩野朝子 鎌田真未子 神谷明宏 神谷候子 川戸れい子 北村和子 木村滂子 桐山澤 グエンゴクジュエン 楠本道子 栗原美津枝 栗山佳子 黒田悦子 河野富子 郡恭子 小林ヤス子 齋藤民子 齋藤知弘 齊藤ヒロ 齊藤芳江 坂井史子 櫻井香 笹岡やすみ 佐藤清子 佐藤浩子 佐藤マリ子 J.E.ランデス 塩井みどり 塩屋綾子 重川利枝 柴崎淳子 芝崎良子 柴田慶子

(寄付者・前頁より続き)

柴田幸子 澁谷陽一 島崎玲子 清水幸江 白井栄子 白庄司彩花 白幡ゆき子 杉野孝子 杉本陽子 鈴木俊子
鈴木誠 鈴木伶子 千田裕 相馬光子 高名知子 田口美穂 田口理架子 楯石和男 楯石てる子 田中亜季
田中幸子 田中祥子 田中豊康 田中英夫 田中満智子 谷山久美子 田和榮 辻俊枝 辻由郎 鶴長美樹子
手島千景 戸井眞澄 土岐尚子 土岐祥子 時田伸二 外崎弘子 鳥羽和江 土肥怜子 富内雄二 鳥海百合子
中澤典子 永島万里子 中西トク子 中野キミ子 中村菊江 中村美佐子 中村みゆき 西文子 西田悦子
新田和子 丹羽百代 沼佳子 橋本永子 長谷川孝一 長谷川初枝 濱田文子 林里絵 原田國子 平江悦子
平野恵子 福田育代 藤井野百合 藤田智 藤田朋子 藤原昌子 古家昌子 ポア ユーユー 細井うめ子 細川敦子
堀内香代子 本多峰子 町田洋子 松尾道夫 松木真奈 松澤寿典 松下淳子 松田明美 松山恵一 三島次郎
三田智美 三井公子 南小柿祐子 南小柿智子 実生律子 宮城崇美子 三宅香織 宮崎珠子 宮下まり 村山和子
毛利亮子 本村亜希子 森かれん 八木敏子 八木正子 矢崎美昭 八束嗣也 八星恵子 山下雅範 横川民子
吉岡郁子 吉岡喜人 吉田秀雄 ランデス ハル 渡辺弘子 渡辺佳子 渡部幸代 藁田世志也 ほか匿名 68人

(団体)

アサヒワンビールクラブ あひるの会を支える会 アンコアを支える会
板橋センターの事業を支えるクリスマスバザー実行委員会 英語研究会 音訳ボランティアグループ
株式会社三恵建設 株式会社高橋勲建築設計事務所 株式会社トップナッチツーリスト
株式会社ピースオブマインド 株式会社平野清左衛門商店 株式会社メイプル 9条世界宗教者会議
グループ聖書を読む会 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 公益社団法人 Civic Force
コール・ライゼ 七彩会 シニアダイヤル有志 シマウマくらぶ親の会 自由学園女子部 61 回生
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー 全国友の会 太陽毛糸紡績株式会社
辻米穀店 東京YWCA 専門学校同窓会 東洋英和女学院中高部宗教委員会 東洋英和女学院同窓会
日本基督教団大泉教会 日本基督教団十貫坂教会 日本基督教団高輪教会
日本基督教団東京教区南支区「東日本大震災」被災者救援活動委員会 日本基督教団武蔵野緑教会 野尻支援会
ピナット Bluebells まきば幼稚舎卒園児保護者有志 武蔵野センターの活動を支える会 ゆりの木工房
「留学生の母親」運動グループまどか 「留学生の母親」運動工房「ひだまり」
「留学生の母親」運動さがみ野地域の会 「留学生の母親」運動城南地域の会
「留学生の母親」運動 総武線沿線地域の会 「留学生の母親」運動を支える会 その他有志

貸借対照表
2017年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	599,923,646	296,354,260	303,569,386
未収金	14,304,837	26,911,168	△ 12,606,331
商品	238,988	518,649	△ 279,661
貯蔵品	77,986	110,808	△ 32,822
前払費用	4,348,250	4,175,450	172,800
前払金	2,922,320	870,358	2,051,962
立替金	4,073	0	4,073
流動資産合計	621,820,100	328,940,693	292,879,407
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本土地	86,917,089	86,917,089	0
基本建物	922,382,230	965,845,255	△ 43,463,025
基本建物付属設備	3,490,622	4,068,313	△ 577,691
基本財産預金	141,000,000	141,000,000	0
基本財産合計	1,153,789,941	1,197,830,657	△ 44,040,716
(2) 特定資産			
建物	169,795,753	97,345,249	72,450,504
建物付属設備	72,479,817	41,549,318	30,930,499
構築物	9,449,046	9,438,287	10,759
車両運搬具	0	1	△ 1
什器備品	2,841,702	3,102,126	△ 260,424
女性の健康サポート特定資産	15,000,000	15,000,000	0
留学生基金特定資産	26,475,423	26,475,423	0
留学生資金特定資産	3,690,202	3,690,202	0
留学生奨学金特定資産	10,122,984	11,476,217	△ 1,353,233
会員サポート特定資産	800,000	800,000	0
介護職員研修特定資産	822,087	822,087	0
中国帰国者日本語教室特定資産	2,000,000	2,000,000	0
預り敷金積立資産	164,025,270	163,001,524	1,023,746
フィットネス預り保証金引当資産	4,800,000	4,800,000	0
野外環境教育預り保証金引当資産	9,400,000	9,400,000	0
会館整備費積立資産	221,968,201	221,968,201	0
東京YWCA東日本大震災被災者支援積立資産	1,458,515	1,988,928	△ 530,413
会館修繕費積立資産	47,980,000	118,000,000	△ 70,020,000
板橋センター増改築特定資産	11,153,050	137,664,354	△ 126,511,304
保育園施設・設備整備特定資産	35,000,000	20,000,000	15,000,000
特定資産合計	809,262,050	888,521,917	△ 79,259,867
(3) その他固定資産			
土地	4,567,750	4,567,750	0
建物	228,275,478	237,014,331	△ 8,738,853
建物付属設備	94,614,691	110,336,554	△ 15,721,863
構築物	5,809,571	6,791,230	△ 981,659
車両運搬具	2	3	△ 1
什器備品	4,936,046	4,212,033	724,013
リース資産	2,379,000	4,575,000	△ 2,196,000
建設仮勘定	0	38,157,920	△ 38,157,920
ソフトウェア	5,246,610	2,273,800	2,972,810
図書	1,761,120	1,761,120	0
電話加入権	2,395,068	2,395,068	0
差入保証金	20,000	70,000	△ 50,000
差入敷金	800,000	0	800,000
出資金	30,000	30,000	0
長期前払費用	288,000	4,175,450	△ 3,887,450
その他固定資産合計	351,123,336	416,360,259	△ 65,236,923
固定資産合計	2,314,175,327	2,502,712,833	△ 188,537,506
資産合計	2,935,995,427	2,831,653,526	104,341,901
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	117,601,267	49,215,059	68,386,208
未払法人税等	120,000	19,325,800	△ 19,205,800
未払消費税等	359,300	9,822,200	△ 9,462,900
前受金	152,098,828	5,267,688	146,831,140
預り金	1,546,824	2,156,040	△ 609,216
1年内返済予定長期借入金	2,760,000	2,760,000	0
リース債務	2,196,000	2,196,000	0
流動負債合計	276,682,219	90,742,787	185,939,432
2. 固定負債			
長期借入金	40,250,000	43,010,000	△ 2,760,000
預り保証金	14,200,000	14,200,000	0
預り敷金	164,025,270	163,001,524	1,023,746
長期リース債務	183,000	2,379,000	△ 2,196,000
固定負債合計	218,658,270	222,590,524	△ 3,932,254
負債合計	495,340,489	313,333,311	182,007,178
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	394,777,244	413,317,378	△ 18,540,134
補助金・助成金	121,431,931	131,708,540	△ 10,276,609
指定正味財産合計	516,209,175	545,025,918	△ 28,816,743
(うち基本財産への充当額)	(173,579,111)	(177,662,654)	(△ 4,083,543)
(うち特定資産への充当額)	(342,630,064)	(367,363,264)	(△ 24,733,200)
2. 一般正味財産			
1,924,445,763	1,973,294,297	△ 48,848,534	
(うち基本財産への充当額)	(980,210,830)	(1,020,168,003)	(△ 39,957,173)
(うち特定資産への充当額)	(288,406,716)	(343,957,129)	(△ 55,550,413)
正味財産合計	2,440,654,938	2,518,320,215	△ 77,665,277
負債及び正味財産合計	2,935,995,427	2,831,653,526	104,341,901

正味財産増減計算書
2016年4月1日から2017年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	78,030	158,090	△ 80,060
基本財産受取利息	78,030	133,090	△ 55,060
基本財産有価証券利息	0	25,000	△ 25,000
② 特定資産運用益	31,539	3,866,594	△ 3,835,055
特定資産受取利息	24,843	203,157	△ 178,314
特定資産有価証券利息	1,000	3,631,000	△ 3,630,000
特定資産受取利息振替額	5,696	32,437	△ 26,741
③ 受取会費	4,507,800	4,641,600	△ 133,800
成人受取会費	4,112,800	4,091,600	21,200
成人会友受取会費	95,000	100,000	△ 5,000
賛助会員受取会費	300,000	450,000	△ 150,000
④ 事業収益	549,536,840	558,203,031	△ 8,666,191
登録費収益	4,279,890	4,371,440	△ 91,550
授業料・講習料収益	61,312,875	65,095,898	△ 3,783,023
フィットネス会費収益	91,818,194	87,561,864	4,256,330
利用料収益	9,876,296	11,327,288	△ 1,450,992
教材費収益	157,376	209,201	△ 51,825
手数料収益	226,956	375,374	△ 148,418
売上収益	2,469,624	2,688,531	△ 218,907
施設設備利用料収益	11,162,045	7,632,805	3,529,240
賃料収益	311,201,024	306,903,199	4,297,825
障がい児者支援費収益	43,142,155	43,173,511	△ 31,356
障がい児者利用負担金収益	2,491,852	2,542,454	△ 50,602
相談料収益	87,500	111,500	△ 24,000
高齢者介護報酬収益	10,257,050	23,834,023	△ 13,576,973
高齢者利用負担金収益	751,387	2,143,743	△ 1,392,356
高齢者受託収益	302,616	232,200	70,416
⑤ 受取補助金等	320,841,626	295,640,489	25,201,137
受取地方補助金 助成金	89,552,318	87,274,615	2,277,703
受取民間補助金助成金	3,399,590	6,942,997	△ 3,543,407
受取受託収益	217,613,109	100,500,986	117,112,123
受取補助金等振替額	10,276,609	100,921,891	△ 90,645,282
⑥ 受取寄付金	37,045,404	26,399,001	10,646,403
受取寄付金	16,687,373	16,401,762	285,611
受取寄付金振替額	20,358,031	9,997,239	10,360,792
⑦ 雑収益	5,093,776	6,255,132	△ 1,161,356
受取利息	4,694	61,980	△ 57,286
その他雑収益	5,017,582	6,062,252	△ 1,044,670
受入研修費収益	70,000	130,000	△ 60,000
利用者等外給食費収益	1,500	900	600
経常収益計	917,135,015	895,163,937	21,971,078
(2) 経常費用			
① 事業費	841,439,062	864,380,076	△ 22,941,014
職員給料手当	121,923,677	110,752,905	11,170,772
職員通勤手当	4,407,459	4,045,489	361,970
職員法定福利費	19,703,961	17,889,089	1,814,872
職員中退共退職金	5,490,526	4,601,089	889,437
教員給料手当	126,609,007	115,964,912	10,644,095
教員通勤手当	3,563,880	2,898,772	665,108
教員法定福利費	19,411,903	17,427,336	1,984,567
教員中退共退職金	5,621,660	4,446,820	1,174,840
非常勤給料手当	117,362,301	132,191,094	△ 14,828,793
非常勤通勤手当	6,544,859	7,219,789	△ 674,930
非常勤法定福利費	5,165,115	6,724,704	△ 1,559,589
福利厚生費	1,717,814	1,451,116	266,698
手数料	4,426,764	6,262,309	△ 1,835,545
委託費	53,606,446	51,787,365	1,819,081
支払報酬	6,719,541	7,712,905	△ 993,364
支援費	5,000,000	1,800,824	3,199,176
消耗品費	12,207,236	14,367,027	△ 2,159,791
消耗備品費	1,376,064	682,560	693,504
食材費	10,740,195	11,652,027	△ 911,832
旅費交通費	9,640,169	11,208,201	△ 1,568,032
通信運搬費	6,165,473	6,519,403	△ 353,930
印刷製本費	948,452	901,100	47,352
広告宣伝費	179,112	272,612	△ 93,500
会議費	496,859	270,951	225,908
渉外費	30,689	39,195	△ 8,506
諸会費	439,598	439,598	0
教材費	3,052,478	2,919,224	133,254
新聞図書費	187,395	168,568	18,827
研修費	662,380	243,580	418,800
賃借料	3,048,410	1,829,157	1,219,253
リース料	6,669,795	6,199,674	470,121
仕入費	1,829,885	2,119,156	△ 289,271
修繕費	9,912,906	14,575,143	△ 4,662,237
衛生清掃費	19,475,353	20,681,182	△ 1,205,829
光熱水費	60,294,965	59,313,097	981,868
保険料	3,695,655	4,121,292	△ 425,637
公租公課	81,108,824	106,147,639	△ 25,038,815
支払寄付金	404,457	1,000	403,457
保守点検料	8,016,016	9,007,913	△ 991,897
奨学給付費	2,160,000	1,980,000	180,000

科目	当年度	前年度	増減
支払利息	534,060	567,180	△ 33,120
雑費	928,735	2,400,096	△ 1,471,361
車輛費	0	344,959	△ 344,959
減価償却費	85,783,538	88,056,574	△ 2,273,036
長期前払費用償却額	4,175,450	4,175,450	0
②管理費	25,979,050	35,250,762	△ 9,271,712
職員給料手当	4,137,484	9,503,428	△ 5,365,944
職員通勤手当	129,583	271,706	△ 142,123
職員法定福利費	676,427	1,670,855	△ 994,428
職員中退共退職金	188,154	498,051	△ 309,897
非常勤給料手当	552,153	952,617	△ 400,464
非常勤通勤手当	28,322	87,778	△ 59,456
非常勤法定福利費	5,782	7,893	△ 2,111
福利厚生費	141,665	30,326	111,339
手数料	799,429	782,644	16,785
委託費	3,993,128	4,371,720	△ 378,592
支払報酬	1,074,514	1,147,183	△ 72,669
消耗品費	293,767	227,913	65,854
旅費交通費	43,603	117,677	△ 74,074
通信運搬費	1,145,142	1,132,197	12,945
印刷製本費	2,426,562	2,361,431	65,131
広告宣伝費	10,000	3,052	6,948
渉外費	10,152	18,721	△ 8,569
諸会費	119,102	136,102	△ 17,000
加盟分担金	4,689,000	5,086,000	△ 397,000
教材費	3,110	0	3,110
新聞図書費	42,675	21,632	21,043
研修費	543,830	302,140	241,690
賃借料	103,714	44,258	59,456
リース料	158,045	172,818	△ 14,773
修繕費	106,077	249,547	△ 143,470
衛生清掃費	315,063	336,332	△ 21,269
光熱水費	1,676,110	1,621,941	54,169
保険料	245,886	347,652	△ 101,766
公租公課	1,008,680	1,012,171	△ 3,491
支払寄付金	0	20,000	△ 20,000
保守点検料	194,819	296,855	△ 102,036
雑費	118,453	134,948	△ 16,495
減価償却費	998,619	2,283,174	△ 1,284,555
経常費用計	867,418,112	899,630,838	△ 32,212,726
評価損益等調整前当期経常増減額	49,716,903	△ 4,466,901	54,183,804
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	5,253,000	△ 5,253,000
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	5,253,000	△ 5,253,000
当期経常増減額	49,716,903	786,099	48,930,804
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①その他の雑収益	1,553,400	1,866,860	△ 313,460
還付金	0	1,866,860	△ 1,866,860
その他雑収益	1,553,400	0	1,553,400
②受託収益	0	8,200,000	△ 8,200,000
③固定資産売却益	0	296,000	△ 296,000
車両運搬具売却益	0	296,000	△ 296,000
④固定資産受贈益	1	0	1
車両運搬具受贈益	1	0	1
経常外収益計	1,553,401	10,362,860	△ 8,809,459
(2) 経常外費用			
①事業費	96,362,410	0	96,362,410
修繕費	95,794,881	0	95,794,881
寄付物品費	567,529	0	567,529
②管理費	1,447,061	0	1,447,061
修繕費	1,447,061	0	1,447,061
③固定資産除却損	2,270,499	10,095	2,260,404
建物除却損	1,923,295	0	1,923,295
建物付属設備除却損	331,554	0	331,554
車両運搬具除却損	3	0	3
什器備品除却損	15,647	10,095	5,552
④受取補助金等返還額	38,868	223,000	△ 184,132
経常外費用計	100,118,838	233,095	99,885,743
当期経常外増減額	△ 98,565,437	10,129,765	△ 108,695,202
当期一般正味財産増減額	△ 48,848,534	10,915,864	△ 59,764,398
一般正味財産期首残高	1,973,294,297	1,962,378,433	10,915,864
一般正味財産期末残高	1,924,445,763	1,973,294,297	△ 48,848,534
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用益	5,696	32,437	△ 26,741
特定資産受取利息	5,696	32,437	△ 26,741
②受取補助金等	0	123,247,336	△ 123,247,336
受取地方補助金 助成金	0	122,947,336	△ 122,947,336
受取民間補助金 助成金	0	300,000	△ 300,000
③受取寄附金	1,817,897	139,762,454	△ 137,944,557
受取寄附金	1,817,897	139,762,454	△ 137,944,557
④一般正味財産への振替額	△ 30,640,336	△ 110,951,567	80,311,231
一般正味財産への振替額	△ 30,640,336	△ 110,951,567	80,311,231
当期指定正味財産増減額	△ 28,816,743	152,090,660	△ 180,907,403
指定正味財産期首残高	545,025,918	392,935,258	152,090,660
指定正味財産期末残高	516,209,175	545,025,918	△ 28,816,743
Ⅲ 正味財産期末残高	2,440,654,938	2,518,320,215	△ 77,665,277

補助金及び助成金

2016年4月1日から2017年3月31日

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
地方公共団体補助金助成金						
高齢者健康づくり事業補助金	調布市	0	600,000	600,000	0	
調布市延長保育事業費補助金	調布市	0	2,819,600	2,819,600	0	
調布市民間保育所等運営費等補助金	調布市	0	60,701,718	60,701,718	0	
調布市保全地区等の保全に関する補助金(保護樹)	調布市	0	80,000	80,000	0	
板橋区心身障がい児療育訓練事業補助金	板橋区	0	11,826,000	11,826,000	0	
東京都保育サービス推進事業補助金	東京都	0	7,309,000	7,309,000	0	
東京都保育士等キャリアアップ補助金	東京都	0	5,410,000	5,410,000	0	
東京都認可保育所屋外遊技場芝生化事業補助金	東京都	0	283,000	283,000	0	
東京都在住外国人支援事業助成金	東京都	0	523,000	523,000	0	
民間補助金助成金						
東京都共同募金会配分金 肢体不自由者水泳指導のために	福)東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給費	公益財団法人東京都福祉保健財団	0	534,060	534,060	0	
生活習慣病予防検診費用助成金	社会福祉法人福利厚生センター	0	47,870	47,870	0	
DV被害者支援の質向上に向けた人材育成とコミュニティ形成プロジェクト	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	0	2,517,660	2,517,660	0	
合 計		0	92,951,908	92,951,908	0	

■ 監査報告

監 事 監 査 報 告 書

2017年 6月 5日

公益財団法人 東京YWCA
代表理事 川戸れい子 殿

公益財団法人 東京YWCA
監事 八木 昭子
監事 横川 氏子

当法人の2016年4月1日から2017年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 貸借対照表、正味財産増減計算書並びにその付属明細書並びに財務諸表に対する注記、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表について且公監査法人に指導を依頼し、別添の書類は2017年3月31日の財産の状況および同日をもって終了する会計年度の正味財産増減の状況を適正に表示しているとの決算報告を得た。
2. 事業報告書の内容は真実であると認める。

以 上

事業を行っている主な拠点

東京YWCA会館	〒101-0062	東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
	TEL	03-3293-5421 (代表) FAX 03-3293-5570

東京YWCA板橋センター	〒174-0043	東京都板橋区坂下 1-34-25
	TEL	03-5914-1854 FAX 03-5914-1852

東京YWCA国領センター	〒182-0022	東京都調布市国領町 7-11-1
	TEL	042-483-5151 FAX 042-483-5207

東京YWCA武蔵野センター	〒180-0004	東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-28
	TEL	0422-27-5871 FAX 0422-27-5872

東京YWCA野尻キャンプ場	〒389-1312	長野県上水内郡信濃町富濃 3946
	TEL	026-255-2414

公益財団法人東京YWCA

URL: <http://www.tokyo.ywca.or.jp/>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

2017年6月発行